

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

加藤 隆二 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Significance of routine preoperative prone computed tomography for predicting intractable cases of inguinal hernias treated by transabdominal preperitoneal repair.

（術前腹臥位CTの、鼠径ヘルニアに対する経腹的腹膜前修復術における困難性予測の意義）

Medicine, December 02, 2022, Volume 101, Issue 48, p e31917

加藤 隆二、小川 博臣、高田 考大、小澤 直也、須賀 邦彦、大曾根 勝也、岡田 拓久、白石 卓也、佐野 彰彦、酒井 真、宗田 真、調 憲、対馬 義人、佐伯 浩司

論文の要旨及び判定理由

本研究は、鼠径ヘルニア術前症例に対し、術前に腹臥位鼠径部部除圧下CTを施行し、術中所見と比較検討したものである。腹臥位鼠径部除圧下CTの既報と比較し、本研究では若干検出率や診断精度が低いものの、施行術式による術中診断の精度などを考慮すると十分に有用性のあるものであった。また、手術が困難である滑脱型ヘルニアの特徴的CT所見について明らかにし、術前に腹臥位鼠径部除圧下CTを施行することで、手術の安全性の向上が期待できると考えられた。

上記研究成果は、鼠径ヘルニアの診療に寄与するものと認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

2023年1月13日

審査委員

主査 群馬大学教授（医学系研究科）
泌尿器科 学分野担任 鈴木 和浩 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
産科婦人科 学分野担任 岩瀬 明 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
機能形態学解剖 学分野担任 岩崎 広英 印